

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200112		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム椿		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1237-15		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件がよく自然に囲まれた場所ながらも近辺には、協力医療機関の上天草病院があり災害時にも東天草分署(消防署)もありすぐに駆け付けられるように日頃より運営推進会議にも参加していただき情報を共有し協力してもらっている。また、地域の方々からは、沿道沿いに当事業所が面しており散歩がてらに気軽に声掛けしていただき近くでとれた魚や野菜や果物の差し入れもあり地域の方とのふれあいを大切にしている。今年度より見守り支援システムの導入やホームページ上での日常生活の様子をブログにて記載している。1月より天草市では初の技能実習生の外国人受け入れ雇用も実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から4年目を迎えたホームでは、今年度より見守りシステムの導入や、ホームページ上にある日々の日常を発信するなど、新たな取組に着手している。行政の技能実習生の受け入れにいち早く対応して雇用が実現し、業務にあたる職員の生活基盤を整え、安心して働ける職場環境を整えるなど法人一丸となってバックアップしている。古くからの地域性が残る海辺の町では、魚や差し入れ野菜を調理に活かし、道行く人々と日常的に関わり伝統行事に支えられ、入居後の生活の幅を広げている。運営推進会議には地域の主要機関から参加が得られており、地域全体でホームを支える体制が出来ている。今後も地域の中の一員として、入居者の普段の生活を支えていられることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開設当初から変えずに管理者と職員とが共有できるように常に目が届く休憩室・リビング・玄関に掲げており確認し実践できるように心がけている。	開設より4年目を迎えたホームでは、理念について振り返り、現行のままでいいのか、毎年内容を検討している。本年度も現理念をケアの原点として継続しており、担当職員がより具体的な短期目標を3ヶ月毎に設定し、1～3月の目標を感染症予防と、異常の早期発見に努めるとしている。“安心と尊厳の暮らし”を日々の支援の中に実現できるよう職員は入居者の声を聞きながら、身近なことから取り組んでいる。	今後はせつかくの短期目標が入居者の生活にどれほど反映されたかなど、全職員で評価検討する機会が必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、町内清掃、など地域の行事に参加し敬老会には、婦人会と保育園児のダンス披露やマンドリン演奏などの訪問もあり交流を深めている。また近所に散歩時に出掛けた時は地域の方から声かけてもらう機会も増えている。	代表者が自治会に加入しており、日頃の交流や新年の会合を通じ、情報交換によりホーム運営に反映させるなど、関係性ができている。2名の男性職員が消防団に所属して地域防災に寄与し、地域の一員として活動している。入居者は日々の散歩中に近隣の人々から気軽に声を掛けられ、立ち話に応じたり、馴染みの神社や近くの海を眺めながら一日を過ごしている。ホーム行事(敬老会)には、地域の婦人会や保育園児が来所し、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員の方や地域の消防団の参加にて情報交流を行っている。また今後は、今まで支援してきた介護方法等地域に活かせる機会を持ち還元していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは、利用者様・ご家族様・民生委員・地元消防団、包括・支所の職員で構成されており行事や活動・研修や評価の取り組みなど報告している。そこで地域行事の情報など聞きご利用者様と一緒に参加し交流を深めている。	開設当時より地域の協力体制が手厚く、行政を初め隣接する協力医や消防団、警察関係者、地域代表者などが毎回ではないが、会議に出席している。本年度最も大きな取組の一つに、天草市で初めて技能実習生として外国人(ベトナム)の雇用をスタートさせたことにある。代表者の熱意により、言葉の壁を乗り越えながら入居者との日々を過ごしており、運営推進会議で参加者に紹介している。	地域の主要機関と連携し、会議への協力が得られており、参加時にはそれぞれの立場から発言してもらおう機会を設定する等、引き続き取組が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議内で市職員に活動状況を報告し意見を伺いアドバイスを頂いている。必要時には随時連絡し確認をしている。	運営推進会議には行政をはじめ、ホームと関わりのある公的機関から参加がっており、ホームの現状を発信して理解や協力が得られている。昨年末の実地指導により、指摘のあった身体拘束や苦情受付等に関する記録物の不備や、不足に早急に対応が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加してもらい理解を深めてもらっている。また月1回の職員間の会議で職員へ周知し拘束がないよりよいケアについて考え取り組んでいる。	運営推進会議の中に身体拘束適正化委員会を設置し、参加者に向け不適切ケアなどについて会議内容を報告している。ミーティングでテレビニュースなどの実例を通し、意見を出し合い、よそでの事件と受け取ることなく、互いに気を引き締めケアにあたることで共通認識としている。入浴や就寝時のボディチェックで、入居者の皮膚や身体全体の異変を早期に発見し、必要な対応をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会による定期的な会議を行い利用者様の現状を見直し虐待にあたる行為がないか話し合いを行っている。また月1回の職員間の会議内では身体や精神の両面で虐待に当てはまる行為はないか適切な言葉遣いやケアができているか確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回研修会に参加し職員に理解してもらう機会を設けている。現在成年後見制度を利用している利用者様はいないが今後利用される方には説明等いつでもできるようにし必要となれば市役所と連携し活用ができるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書・利用料等十分に時間をかけて説明を行っている。改正時には文書による周知と遠方のご家族様には文書郵送し電話連絡し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望等は日々の日常生活や日常会話の中から汲み入れ取り込むようにしている。ご家族様には面会時等に要望等伺うようにし運営推進会議の中で議題にし意見等をいただき運営に反映している	職員は普段から家族とのコミュニケーションを図り、余裕を持って話を聞くようにしている。広報誌“椿だより”を毎月発行し、面会時の話題としたり、遠方の家族の安心材料としている。入居者の要望をケアプラン更新時にあらためて聞くとなかなか言われないため、リビングでゆっくりした時間や居室で1対1になった時にタイミングを見て要望を引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティング時に話し合いを持ち希望や提案をだしてもらいその内容を会議で検討し改善事項等周知し業務に反映させている。	管理者は職員の意見をその都度聞き取り、出された意見をミーティングや代表者にあげて検討している。法人の関連事業所と交流し、情報交換や職員異動がおこなわれている。技能実習生の受け入れにより先ずは、日勤勤務により入居者に関わり、関係性が出来たうえで半年後を目途に夜間勤務を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として正職員の雇用登録制度、資格支給制度などがある。資格取得の場合はそれを活用出来るように配慮する。また他の事業所への異動希望なども聞き入れ実施し希望を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修等がある場合は、代表者の方から周知し管理者だけでなく職員誰でも参加できるように促している。また働きながら資格が取れるように育成にも力をいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡会に参加し年4回の研修に参加し情報交換等を行っている。それ以外の研修案内にも管理者以外の職員も参加してもらい情報の交換にサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前に面接を行いご本人様の不安や要望を聞き取り説明しご家族様には本人様の性格や生活歴等を伺い入所後に本人様が安心して過ごせるような対応ができるように職員同士に周知し情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面接時にご家族様からの要望や不安を聞き取り説明を行っている。入所後の面会時には職員から積極的に生活の様子をお伝えしご家族様との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様及び担当ケアマネと情報交換しながらニーズの把握をすると共に提供できるサービスの説明を行っている。必要であれば他サービス機関の情報も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ることや昔から得意な事などを職員が把握しその方に合わせた家事作業や畑仕事買い物等の活動を一緒にさせていただき立場とし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め相談しあえる関係を築けるように1年に1度の会の参加促しや誕生会のなどに参加していただくことによりご家族様と共にご本人様を支えていく関係を講築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月1度ホーム内の行事やお誕生会の様子などをお便りにし写真記載し発行している。ご家族様に施設に出向いてもらえる環境を整えている。又地域交流の機会を大切にしており地域行事に参加したり施設に地域の方を招いている。	家族や友人、知人など面会の機会は多く、リビングや居室を案内しゆっくりと過ごしてもらおうよう声を掛けている。地域からの魚の差し入れは、一品料理として振舞われ、天草ならではの料理が馴染みの食生活として、入居者の楽しみとなっている。地元神社の秋まつりに奉納される獅子舞には、男性職員が入っており、勇壮な舞はホームでも披露され、入居者に懐かしい行事として喜ばれている。女性入居者の手際のよい包丁さばきや廊下のモップ掛けなど、これまでの特技が活かせる場面を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりができる作業や共同作業を提供し出来ない所は職員と一緒にしながら楽しめるように配慮している。カラオケや運動レク等ご利用者様同士が集まって楽しく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関連機関に面会に行ったり情報提供や相談などご家族様の心配や必要に応じて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご本人様の様子などでその方の思いや希望を記録などに残し意向の把握に努めている。困難な場合は、各利用者様の担当がご本人様の状態を考慮して思いを聞きいれ会議を設け職員同士で検討している。	日中のリビング内は、入居者と職員の会話に笑い声が漏れ、満足されておられる様子が窺える。職員は普段の会話や、就寝前のやり取りから思いを汲み取り、支援に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、面会時に来られた知人の方や友人、担当ケアマネジャー等関わりのある方から情報を集め情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の生活パターンを理解し心身状態の変化に留意し気付いたことは全て記録に残し申し送りや会議などで検討し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のミーティングでプランの確認を話し合っている。プラン更新時にはアセスメントの原案を各担当職員が作成し計画作成者と協力して行っている。ご家族様の面会時には近況報告、相談など行いそれを踏まえて作成している。	職員を入居者の担当制としており、入居前の情報から要望を確認して、初期プランを作成している。早く生活に慣れてもらいたいとの家族の声をそのままプランにあげ、出来ることを手伝ってもらいながら、現在の機能を低下させないような内容を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に個人記録経過表にて24時間の記録を行いご利用様の日々の活動や様子を記録に残し変化あった場合は、ミーティング時に検討しモニタリングやケアプラン作成を見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況に応じて受診の同行や買い物など柔軟な支援を行っている。状態変化等は電話にてかかりつけ医に相談したり受診同行を行い医師に病状を伝えるなど連携を取りながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域へホームの情報を伝え理解を広げるよう働きかけを行っている。近隣への買い物や薬局へも一緒に買い物に出かけ地域資源を活用している。また避難訓練時にも近隣の方に協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、往診であることを前もって伝えよければ往診対応を理解して頂いている。昔からのかかりつけ医の場合は利用者様やご家族様の意見に応じ適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関をこれまでかかりつけ医とされていた方も多く、往診や状況に応じた受診と、希望する医療機関へ職員による受診支援が行われている。看護職員を中心に日頃の健康管理に努め、気になることがあれば早めに主治医へ報告を行い、指示を受けている。歯科は必要に応じ家族の承諾を得て往診を受けており、ホーム内で治療を受けることで入居者自身も不安がないようである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を記録し変わった事があると記録に残し看護師と常に連絡とれる状態を確保し相談やアドバイスなどの助言を他の職員と共用し適切な支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が最後まで付き添いご本人様のホームでの状態報告情報を医療機関に提供している。入院中には定期的に訪問しご本人様の不安な気持ちを軽減できるように努めている。早期退院出来るようにご家族様と医療機関と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化の指針を作成しご家族様には十分説明し同意書記入してもらい理解してもらっている。今後は協力してもらおう地域の関係者との話しなどしていき看取りまでの支援に繋げて行けるように取り組んでいきたい。	重度化・終末期支援に関する指針をもとに、家族への説明を行っている。中には「いざという時になってみないとわからない！」と回答される家族もおられ、必要に応じてあらためて意向などを確認している。急変や事故発生に備えた研修会は実施しているが、あらたまった看取りに関する研修会は行われていない。	近隣に協力医療機関である総合病院があることは、家族や職員にとっても心強いものとなっている。今後も主治医との連携やホームにできる終末期支援について職員の意見を踏まえ、検討されて行くことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法に職員への連絡方法等随時確認している。急変時の対応の流れや連絡体制などが記されたマニュアルを日頃確認できる場所に設置している。3月に普通救命講習を職員全員受講する予定をたてている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網訓練や避難訓練、地震発生時訓練を実施している。避難訓練時には消防署からの指導をいただき近隣の方にも参加していただき協力体制を築いている。	8月に昼間を想定した火災自主訓練では、避難口を工夫し実施している。3月には消防署の参加協力による夜間想定火災訓練を予定している。備蓄は調理担当職員が中心になって備えている。火の始末などは日々の安全チェック表を活用している。	安全チェックを行う際は、その日の責任者として今後も意識をもって取り組まれることを期待したい。備蓄についてはリストを作成し、周知に繋がるよう事務所での掲示やマニュアルへの添付なども必要と思われる。昨今の自然災害は想像を超えるものがあり、海が近いという環境から、今後も自然災害についても訓練や対応策を検討されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様は人生の先輩であり尊敬の念を忘れないように心がけご利用者様の性格や今までの人生経験や生活歴など把握し言葉掛けには十分配慮している。	入居者は人生の先輩であることを全職員が理解し、本人の望む生活を支援できるようにしている。呼称は苗字や下の名など、その方の希望や反応などに応じて対応し、方言もきつくなったり馴れ合いの会話にならないように注意事項を会議で共有している。職員の守秘義務の徹底(スマホによる発信なども含め)については、代表者からも機会あるごとに指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から買い物や行きたい場所を聞きとり行事を企画したり外出支援を行っている。また日常での家事支援やレク活動等の場づくりのおいても個別に合わせた活動を提供できるように取り組んでいる。意志表示が困難な方は表情から読み取るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが一人ひとりのペースを優先した生活を支援し家庭的なゆっくりと好きなことができる環境を提供している。希望時には、散歩やドライブや買い物など希望に沿って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の要望に耳を傾け身だしなみなど細かく聞き出しご希望の髪型などの散髪をしている。おしゃれなどは昔からのご本人様が愛用されていた物など使って頂き顔そりや爪切りなどは職員で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食前のテーブル拭きに食後の食器洗いなどのお手伝いをしてもらい食事は利用者様と同じテーブルにて食事を共にしその中で好きな物や嫌いな物など聞き入れ好みの食べ物をその時の状況に応じて提供している。	地元食材の活用や旬を取り入れた献立を作成し、職員による調理が行われている。誕生会食は本人の希望を聞き取り、天草ならではの刺身も提供されている。行事食や時には握りずしの出前など、目先を変えた食事を楽しんでいる。職員も基本的に同じものを一緒に摂っており、家族団らんの雰囲気でもより食事を楽しんでもらっている。入居者も野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、出来る事を一緒に行ってもらい、そのことは入居者の楽しみや自信にもつながっている。	おやつ時にはお茶以外の好みの飲み物(コーヒー・ミルクティ・ココア・アップルティなど)を提供することで水分摂取にも繋がっている。今後もバラエティに富んだ飲料の提供は楽しみと思われ継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分チェック表を活用し体重の増減確認し利用者様の一人一人の状態を把握し好みの飲み物の提供やその方に応じた物などを提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回歯科往診にて衛生士より口腔ケア実施にドクター訪問にて歯の治療を行っている。職員も口腔ケアの仕方や分からない事があると聞いたりして職員同士共に共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者様の排泄パターンを把握し時間になると声掛けし誘導している。日中に布パンツで対応し夜間のみのおむつ使用で家族にかかる金銭面の負担も軽減している。	トイレは3か所設けられ、入居者は使い慣れた場所を使用されており、日中はトイレ誘導に努めている。リハビリパンツや布パンツにパットを併用されている方が殆どであるが、身体状況から昼夜テープ式オムツの方もおられる。夜間のみポータブルトイレを使用される方が2名おられるが、管理者は洗浄や消毒など清潔保持に力を入れることを全職員と共有し、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	上記と同様に排泄チェックにて排便状態も把握しその方に合わせた飲み物や食材を工夫し提供している。また、体操に腹部マッサージや歩行運動なども取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが一人一人のその時の身体状態や利用者様の希望に合わせてたり柔軟な対応をしている。拒否などある場合は、時間をずらしたり無理強いせず次の日に変更するか更衣や清拭などの声かけなどを実指している。	毎日入浴の準備を行い、週2~3回の支援と、汚染時はその都度対応し、不快なく過ごせるようにしている。機械浴が備わり、ゆっくり安全な入浴を楽しまれているが、中には拒否の方もおられ、職員は声掛けの工夫や時間、日程をずらすなど対応したり、更衣や清拭で応じている。シャンプーなどはホームで備えているが、使い慣れた物や皮膚の状態から個別での購入を希望される方もおられる。	浴室内は明るく掃除も徹底されており、浴室内に置かれたシェバーについては、安全面から管理方法の検討が必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人その日の体調に考慮したり利用者様の希望に添って居室やリビング内のソファなどでいつでも休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書のファイルを作成し職員がいつでも確認できる場所に置いている。服薬時には、誤薬がないように声出し確認し服薬されたかまでの再確認までし確実な与薬に努めている。薬の変更があった際には病院受診記録ノートで周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて洗い物やお盆拭き調理の下ごしらえなど出来ることを役割分担している。昔の仕事である畑仕事や裁縫など個人の生活歴に沿った活動や趣味などを組み合わせて楽しみのある生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の必需品や食材購入など声掛けし一緒に買い物に出かけている。季節の変わり時には外出レクを計画し花見や運動会に初もうでに出かけている。天候が良い日には、利用者様の状況に応じて散歩やドライブなどの支援も行っている。	入居者にとって馴染みの海が徒歩圏内にあることから、季節や天候が良い時は海を見ながら散歩やドライブに出かけている。また、個別の買い物や食材購入など外出への声掛けにより支援している。花見や初詣など季節の外出も継続して取組んでいる。家族の協力としては、法事への帰省やコンサート鑑賞などに出かける方もおられる。	今後も寒さや感染症など外出を控える時期は、人や車の往来を見ながら、リビングでの日光浴など、外出気分を少しでも味わえるような支援の継続を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には財布を持って行かれ自分で支払いをして頂いている。自分で管理できない利用者様にはお金の管理を説明し一緒に買い物に行ける方は行き購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望やご家族様連絡の際に電話の取り次ぎを行っている。年賀状や手紙などもご本人様の要望があったときは担当職員と一緒に自筆にて手紙や年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と職員による手づくりの壁面飾りや塗り絵など四季を感じさせる飾り付けを展示している。リビングからの眺める外の縁には季節に合った花を植えている。リビングやトイレ、居室には床暖房・加湿器・冷暖房を備えている。居室ではプライバシー確保、清潔保持に努めている。	天井が高いリビングは、地域とのふれあいや避難も考慮して、掃き出し窓のオープンな場所となっている。また、ホーム名にちなんだ樫の壁面や入居者に飾ってもらった花など、ゆっくり過ごせる空間となっている。今回の訪問では、ベトナムから来日し新たな介護スタッフに加わった職員を歓迎するメッセージが大きく掲げられているのが印象的であった。ホーム内は掃除や換気、温湿度管理に努め、居心地よく過ごせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時や気分転換したい時などに利用して頂けるように廊下等にソファや椅子を設置している。またリビングにはテレビやソファを設置し好きな場所でくつろぐことができるように環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様にとって安心した居心地よい居室となるように入所時のご家族様と話し合い本人様の使い慣れた馴染みみの物(タンスや食器やラジオ時計等)を持ち込んで頂くようにしている。また新しい物の購入時には極力ご本人様と一緒に買い物に出かけ好みの物を選んで頂いている。	本人にとって安心して過ごせる居室となるよう、入居時に他の部屋も見てもらい、馴染みの品などの例をあげながら持ち込みを依頼しているが、プラスチックケースの持ち込みや寝具も新たな物を用意されるところが多いようである。入居後も必要なものがあれば家族へ伝え、新たな衣服(ズボンなど)の購入の必要があれば、可能な限り本人と一緒に買い物に出かけ、タンスに収納し安心してもらっている。	居室によって採光が異なることから、今後もゆっくり就寝出来るよう、天候の良い日は寝具の日光干しなどを継続いただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内廊下や脱衣所、トイレには手摺りが設置されており歩行不安定な方に使用している。またトイレにも分かるように大きな字でトイレと表記している。居室が分からない方には名前付きの表札を置き部屋を見つけやすいようにしている。		